

## 「なすかしの森 ボランティア養成研修」報告

令和2年7月23日（木）祝

### 【目的・趣旨／概要】

ボランティア活動について理解を深めるとともに、ボランティア活動をするために必要な知識・技術を身に付ける。

また、今後のボランティア活動への意欲を高め、青少年教育施設や地域で活動できるボランティアを育成する。



### 【参加者】

大学生男子1名・高校生男子4名・高校生女子9名 （計14名） ※福島県内に限定

### 【プログラム概要】

#### 【講義Ⅰ「体験活動っていいことたくさん！（青少年教育）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 次長 蓮見 直子

青少年を取り巻く状況や、体験活動の意義について、各種調査結果をもとにした講義を行った。体験活動の有効性が広まりつつあり、増加傾向にあるが、体験格差も広がりつつあり、どのように体験させるかが重要であることなどを学んだ。



#### 【講義Ⅱ「青少年教育施設ってこんなところ！

（青少年教育施設の現状と運営）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 所長 金子 豊

青少年教育施設は様々な種別があり、国立28施設の他にも多様にあるが、減少傾向であること、また、当施設は子供たちに豊かな自然体験を提供することを目的になっていることなどについての講義を行った。ボランティア活動も当初からの目的の一つであることも理解した。



#### 【演習Ⅰ「自然とあそぼう！（ボランティア活動の技術）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 事業推進係 岩谷 香

事業等で実際に支援するための技術を学ぶ演習を行った。雨天のため、室内での活動となり、新聞紙を活用した遊びを参加者で考えた。身近なものでも楽しめる工夫を盛り込み、輪投げゲームと鬼ごっこを独自のアレンジで創作することができた。



#### 【演習Ⅱ「いざというときに役立て！（安全管理）」】

講師：応急手当普及員

応急手当普及員の資格を持つ当施設職員から、市民による応急処置の重要性について学んだ。実際に処置に当たれるように、胸骨圧迫による心肺蘇生法や、AEDの操作方法などについても実践を伴って学ぶことができた。



【講義Ⅲ「ボラ活動って楽しいよ！！（ボランティア活動の意義）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家 職員・法人ボランティア

Web会議システムを活用して、先輩ボランティアの体験談を聞いたり、ボランティアについてのイメージを伝え合ったりした。また、ボランティア活動は自分自身のためにもなることを理解し、ボランティア活動から得たいものを考えた。



【説明 「こんな活動しています～自然の家でのボランティア活動～  
（青少年教育施設におけるボランティア活動）」】

講師：国立那須甲子青少年自然の家

ボランティアコーディネーター 増田 直人

実際に法人ボランティアとして活動することになる教育事業についてや、機構の法人ボランティアの制度についての説明を行った。また、当施設がボランティアの学生に求めていることなどについての理解も深めることができた。



【企画・運営上工夫したこと】

- ・新型コロナウイルス感染防止対策として通常1泊2日13時間のカリキュラムのところを、事後課題を課すことで、日帰りの事業にした。
- ・参加者を県内限定、少数にし、実績のある高校生を中心に募集をした。
- ・他県にいる、先輩のボランティアの体験談を聞くために、Web会議システムを活用した。
- ・フラフープを活用し、距離を確保したアイスブレイクゲームなどを考案し、実施した。

【成果】

- ・日帰りの事業だったため、参加しやすかったのか、多くの高校生の参加があった。
- ・標準カリキュラムの不足分を補うために、事後課題を課すことが認められたので、新しい養成研修のあり方を模索することができた。
- ・「ボランティアの技術」の科目は、雨天のため、室内でゲーム創作となったが、参加者なりの工夫がみられ、主体的な活動となった。
- ・Web会議システムを活用して、先輩ボランティアの体験談を聞くこととで、有意義なプログラムとなった。
- ・参加者の中に、小学生の頃に教育事業に参加した方がいた。

《参加者の声》

「楽しかった。」「ためになった。」「ボランティアに積極的に参加していきたい。」

「職員の方々が、親しみやすかった。」「チラシを見て参加したが、イメージと違った。」

【課題と方策】

- ・日帰り事業のため、参加者同士が自由に交流する時間が少なかった。講義や演習で交流をさせようにも、新型コロナウイルス感染防止対策もありさらなる工夫が必要である。
- ・「ボランティアの技術」の科目のタイトルを「自然とあそぼう！」としたため、雨天で室内になり、タイトルと全く別の活動で、参加者を戸惑わせてしまった。
- ・「安全管理」の科目は、AEDのトレーナーが1台しかなかったが、2台はあったほうが良かった。

国立那須甲子青少年自然の家 [作成] ボランティアコーディネーター：増田 直人